



よしきい

2019年5月26日



目 次

・公園の風景

- 春から初夏へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- かわいいお客さま・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- もしかして!?!・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 公園の植物（シラン）・・・・・・・・・・・・ 1

・公園をみる・観る

- 天牛、公園に牛？・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- Kさんの、あんなとりこんなとり・・・・ 2

・活動紹介

- 第16回総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 雨でもまつり、春まつり・・・・・・・・・・・・ 3
- クロツラちゃんの喜ぶ顔が見たくて・・・・ 3

発行：「葦の会」

編集：機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

山口県立きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030

FAX 0836-66-2031

～ ご一緒しませんか ～

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= 春から初夏へ =

五月。公園が一年中で一番美しい姿（表紙写真）を見せてくれる季節です。

晴れた日の朝、淡水池の水面は磨いた鏡のように光り輝き、その水面をカイツブリや数羽のオオバンなどがのんびりと浮かんでいます。午後、初夏を思わせる気温のなか園路を歩くと、若々しい新芽やトベラの花の芳香などで園路はあまやかな空気が漂っています。薄紅がかかった白い花を付けたシャリンバイも競うように咲き、足元には黄色いミヤコグサやカタバミのほか、青やピンクの名も知らぬ可憐な花々が心地よい風に揺れています。ビオトープでは睡蓮の花が夢から覚めたように次々と咲き始めていました。

ヨシ原ではおなじみのオオヨシキリが、ギョシギョシギョシ、ケシケシケシと賑やかにさえずり子育ての準備をしている様子。早くも飛び交い始めたイトトンボたちに交じり、春にだけしか見られないベッコウトンボ（絶滅危惧種）も飛んでいました。公園は今、春から初夏へ韋駄天の速さで移っています。

= かわいいお客さま =



5月12日、宇部市内の双葉幼稚園と保育園の園児31名とその保護者の方々、総勢89名がバスに乗って賑やかに来園しました。レクチャーホールでビデオを見ながら今公園で見られる鳥や生き物の説明を聞いた後、ビジターセンターのスコープをのぞいて、「カニがおった!」と喜ぶ子や、「白い鳥が見えたよ」と教えてくれる子もいました。園路では木の間をスーイスーイと飛ぶイトトンボを見ついたり、オオヨシキリの大きな鳴き声に、「なんの声?」と耳を澄ませたりしていました。子どもたちの可愛い声で、いつもは静かな公園が華やいだひとときでした。

= もしかして!?..... =

平成27年に公園の東側に建設されたミサゴの人工巣台。いつかミサゴがマイホームを造ってくればと期待を持って見守ってきた。しかし、巣台建設以来いつも空っぽのままだった。公園も葦の会もなかば諦めていたが、最近になって若いミサゴのカップルが木片や乾藻など、巣の材料と思われるものを持ち込み始め、時に繁殖行動も見られた。もしかして繁殖か!?と祝賀ムードが漂よいかかったが、アレ?今日は誰もいない。持ち込まれた建設資材が置き去りにされている。

レンジャーによると、繁殖の時期を逸しているのも無理だとは思っていたとのこと。でも、やはり期待をこめて今後も見守って行きたい。



= 公園の植物 =

シラン（ラン科シラン属）

原産地は日本、台湾、中国。山口県下では容易に見かけられるが、ラン愛好家には自生ランとしてファンも多いようだ。

球根で株を増やす宿根草であるが、開花後に結実する実も種をはじかせる。公園の観察舎の周辺に咲き誇るシラン（紫蘭と書くが白い花もある）は1964年に国営干拓事業として完成した阿知須干拓地に群生していたものを当公園へ移植したものだ。年毎に株数を増やしている。



公園をみる・観る

= 天牛、公園に牛？ =



枯れたヤナギ

「天牛」と書いてカミキリムシと読む。

トンボロードに枯れ朽ちたヤナギの残骸がある。公園開設時よりずっとその場にあったが20年近く年を経た今、カミキリムシの幼虫に食害され枯死してしまった。来園者の安全のため枯れた枝は切り落とされ、幹の部分だけが往時を物語っている。カミキリムシはコウチュウ目カミキリムシ科、細長い体と大きな顎を持ち、体長の3倍くらいある触覚が特徴。世界には2500種、日本では800種程度の仲間がいるそうだ。林業関係者にとっては害虫で、5～6月ころヤナギ類類、イチジク



ゴマフカミキ

やナシなどの果木に傷を付け卵を産みつける。産み付けられた卵は樹木の中で、1～2年かけて幼虫→蛹→成虫と完全変態をへて成長する。樹木の材質を食べながら成長を続ける幼虫は別名「鉄砲虫」とよばれ古くは癩の薬として用いられていた。また、昭和中期までの東北山間部では冬の間の貴重な蛋白源として重宝されていたという。今でも熱帯地域の原住民の食糧となっているそうだ。木材に含まれるセルロースのおかげで幼虫は甘みが多く意外と美味しいらしい。公園でよく見かけるのはゴマダラカミキリ。そのフォルムのカッコよさから子供たちに人気の昆虫で、毎年7月に開催する夏休み子ども早朝観察会でもこのムシを見つける子どもたちから歓声があがる。人気TV番組だった「仮面ライダー」のモチーフでもあるそうだ。手でつまむと「キイキイ」と発音する。日本語表記では「噛み切り」「紙切り」「髪切り」の三通りがある。中国では「天牛」と漢字表記され、長い触角をウシの角に見たてたとされる説に、この虫が現れ始めると不思議と雨になることから、天気を司る虫だから「天」の字をつけこの表記になったとされている。（筆者：なるほど成虫が活発に産卵を始めるころ、日本は梅雨に入るよねえ、でも中国にも梅雨ってあったっけ？）。

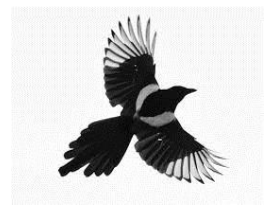
ついでに英語表記では Longhorn beetle（長い角の甲虫）と表されるそうだ。どこの国でもカミキリムシたちの長～い触覚は、ある種、人間たちの羨望の的なのかも知れない。公園は命萌える時期を迎えカミキリムシ以外にも魅力にあふれた昆虫たちが生をつないでいる。飛蝗、蜻蛉、かまきり、こもりぎ、てんとうむし、てんとうむし、蟋蟀、紅娘（天道虫）などなど…。（土×土）

Kさんの、あんなとりこんなとり

台湾に行った時、台北の街中にある緑豊かな公園で、体は白黒で尾が長く、カラスよりひと回り小さい鳥を見かけました。ツガイでいて、地面を歩く格好はカラスに似ています。ところがこの鳥、飛び立ったときがすごいのです。体のどこに隠し持っていたのか、見事な白い羽を扇のように広げ、木から木へと滑空する姿が実に優美で、時間を忘れて見入ってしまいました。



中国や台湾では喜びごとを伝えに来る吉兆の鳥として愛されているというこの鳥の和名はカササギ。それまで見たことがなかったのですが、佐賀平野の周辺に生息していると知り、日本のカササギに会いに行きたくなりました。



活動紹介

= 第16回総会 =

4月14日（日）、葦の会総会を開催しました。12時30分、ビジターセンター多目的室に集合して昼食を摂ったのち議事に入りました。平成30年度の活動報告、決算報告、監査報告が承認され2019年度の活動予定案、予算案が審議され了承されました。葦の会はNPO野鳥やまぐちが行っているクロツラヘラサギ保護事業の協力団体であり、山口湾におけるクロツラヘラサギの通年生息調査活動を平成30年度から手がけておりました。今年度も続けて通年生息調査活動を行うこと、また公園内に設置されたクロツラヘラサギ保護・リハビリセンター周辺の環境整備活動に取り組むことも活動の一部に加えられました。クロツラヘラサギ保護活動に関しては、今秋、当公園主催の国際シンポジウムが韓国、台湾、香港、北朝鮮の4カ国の関係者を招いて行われる予定や、同じく12月に台湾への視察も計画されており、例年の活動に加えてなお一段と忙しく意義のある活動年度となります。

= 雨でもまつり、春まつり =

超大型連休の3日目、4月29日（月・祝）に恒例となった「きらら浜自然観察公園春まつり」が開かれた。天気にも恵まれない肌寒い一日だったが、時間が経つほどに入館者数が増えた。雨のためほとんどのコーナーが室内に持ち込まれていたことで、入館された方々はじっくりと腰を据えてプログラムを楽しまれたようだった。葦の会特製の蒸しパンのおいしそうな匂いが食堂内に漂い、蒸しあがるはしから売り切れる。うどん、ポップコーン、コーヒーなどの温かいものが喜ばれた。雨のためバードウォッチングは午前午後ともに中止となったが、館内ではハチミツ絞りあり、楽器演奏あり、工作教室、各種ゲームなどなど、終日子どもたちの笑顔と喚声が溢れていた。例を見ない大連休で親戚一同が集ったのでみんなで来たと話され、長時間館内で過ごし玄関前で記念撮影をして、楽しそうに帰って行かれたご一行もあり、見ているスタッフにも楽しい気持ちが伝わった。子どもたちに人気のゲーム「クロツラヘラサギのえさ採りゲーム」では、挑戦者が入れ替わり立ち代り、とうとうクロツラヘラサギの嘴のフィギュアはアングリと口を開いたまま使用不能となった。10月の「ふれあいまつり」までに嘴のフィギュアを修理し、たくさん子どもたちの挑戦に備えようと、思いは早くも秋のイベントへと飛んでいる。



= クロツラちゃんの喜ぶ顔が見たくて… =

4月21日、クロツラヘラサギの保護ケージの脇にある汽水性植物池に、葦の会メンバーがゴム長を履き鎌を手に集まりました。溜池化したこの池の改良を図り清らかな流れを作るとともに、ゆくゆくはクロツラヘラサギのエサとなるエビの養殖池を作ろうというクロツラヘラサギのための環境整備です。葦の会の環境サポートチームが中心となってプロジェクトを進めます。この日は第一目標として池にはびこるカヤの類を刈り取る作業を行いました。泥に足を取られながら各自の持ち場をこなしました。ものみな成長するこの季節、カヤを刈るのも追いかけてことなることなのでしょうが、クロツラちゃんの喜ぶ顔を見たくて一同頑張っています。

～～表紙写真～～ 鏡よ鏡。一年中で一番美しい5月の池面（イケメン）です。

（編集後記）急に暑くなり体調管理が難しい季節ですね。夏休み子ども早朝観察会（7月28日・日曜日）が近づきました。皆様公園に遊びに来ませんか？いろいろな虫たちも待っています。（T.K）